



らくご 落語でなぜ「おあとがよろしいようで」というの

つぎ らくごか こうたい 次の落語家さんと交代できますよ

「わたしのらくごはこれでおわりです。次の(あとの)らくご家の準備もできたようすから」という意味なのです。バトンタッチをするときに使うきまり文句なのです。ですから、次に演じる人がいない、最後のらくご家は、このことばを使うことはありません。

ときどき、次に演じる人が楽屋に入るのが遅れたり、用意がととのっていないときがあります。そうしたときは、先のらくご家ははおりをぬいで、楽屋の方へほうります。そのはおりを楽屋の人がひっぱってひっこめれば、次の話し手さんが到着して、用意ができたことになります。

はな て はなし あとの話し手さんの話もよろしいですよ

「わたしの次の話し手さんの話は、とてもよろしいですよ」という、宣伝の意味もふくんでいます。(監修・保岡 孝之)

